



2007年7月25日

発行人：平 良
編集：広報渉外・庶務ユニット
発行所：学校法人クラーク学園
〒229-8522
神奈川県相模原市青葉2-2-1
電話 042 (754) 1133

五十一周年目に入って

理事長 平 良



昨年クラーク学園創立五十周年を祝いました。神様のお守りと先輩のご努力によって、いくつもの難局を乗り越えて充実した学校になったことを喜びました。

現状では学校の内容について外からも良い評価をされていますし、施設面においてもほぼ満足出来るようになりました。役員の協力関係も良く、教職員との関係も良い状態にあると自負しています。

このままで推移すれば言うことではないのですが、先行きは決して安心出来ません。いわゆる十八歳人口の減少、短大志願者の減少等によって先行きは必ずしも明るくありません。私は短大には独自の役割と使命があり、現在の四年制大学への指向、高学歴というより長学歴の傾向が良いものと思っていますが、世間の動向は無視するわけにはいきません。

こうした中であって、この短大の使命を明らかにするために、新しい時代に向けて短大

のミッション・ステートメントを明らかにしました。こうした宣言によって解決することはいえませんが、私達の決意を公約することによって自らを励まして行きたいと思っています。

この五十年間児童福祉の担い手を育てること、高齢者福祉を担う者を育てて来ました。私は現在の「福祉ばかり」の傾向は誤っているとは思いますが、福祉に便乗している風潮を残念に思っています。福祉は自分に利益をえるものではなく私達が福祉の担い手になることを求めているものであると言えましょう。現に福祉を担っている人々に対する粗末な取り扱いを見てると悲しくなります。すべての人が福祉を担っている人達を物心両面において支えて行く努力をしなければならぬものであるうと思っています。

そのためには、もっと福祉の心を育てる必要がありましょう。教会が長い間福祉を担って来たことを考えれば、キリスト教の空気の中でその志を育てて行くことに一つの意味があると考えています。

皮肉な人は教会のやることは慈善であって福祉ではないと言いますが、そもそも福祉のない時代に教会がそれを担って来たのであり、言葉のあやがすませるものではありません。私は今でもなお、福祉を担って来た教会の精神をこの小さな学園で育つ者に伝えたいと思っています。

学校法人クラーク学園 ミッションステートメント(創立50周年を記念して)

【前文】

学校法人クラーク学園の起源は、CCF(Christian Children's Fund, Inc.)運動による。それは、創始者カルピット・クラーク博士の戦災で苦しむ子どものために、献身するビジョンが、他の人に伝わり、それが連鎖的に次々にひろがり、国境を越え、世界の子どもの幸福のために働く愛の共同体として活動を続けている。

学園の起点は、1956年(昭和31年)4月、米国CCFによって設立された社会福祉法人基督教児童福祉会バット博士記念養成所にさかのぼる。第二次世界大戦後、わが国の困窮している人々を救済したララ物資配分責任者バット博士によって、ミルス博士を通して、わが国へのCCF援助の懇請によって実現した。児童福祉施設の子どもへの経済的援助のみではなく、そこに働く職員の資質向上こそ根本的急務であるというCCFおよび援助施設よりの要請によって、実験的モデル施設と訓練講習会の開催のためにバット博士記念センターが開設された。子どもにとって楽しい明るいホームと人材育成の福祉事業が車の両輪のようなものである。

学園は、急激に変化する社会において、ある時は先駆的に、また社会からの求めに応じ、バット博士記念養成所から玉川保育専門学院、和泉短期大学、和泉福祉専門学校を生み育ててきた。学園の創立と共に、ヨハネ福音書より校名を「和泉」と命名し、「願わくは、このキリストの泉から若者たちの清らかさと愛とが湧き出でんことを」との標語を掲げ、建学の精神「愛と奉仕」のもとで教育事業が実施された。子どもから高齢者に至る人のライフステージに応じたケアを担う人々の教育・訓練・養成を使命とし、多くの良き働き人を世に輩出してきた。

学園の歩みを、運営、教育に携わる人々の背後にあり導く神の御旨に応え、託された使命(ミッション)を果たすため、次の時代に歩み出す決意を、ここにミッションステートメントとして表す。

【宣言】

1. 学校法人クラーク学園は、福音主義キリスト教の精神にもとづき、聖書に示されている「隣人を自分のように愛しなさい。」(マタイ22:39)の精神をもって、子どもから高齢者に至るすべてのライフステージに対応する福祉と教育を担う『愛を実践する専門家』を養成することを使命とする。
2. 学校法人クラーク学園の教育は、すべての人間を出自、人種、年齢、性別、身体的精神的状況、宗教的文化的背景、社会的地位、経済状況などの相違を超えて、個人の尊厳を尊重し、そのライフステージに適合する福祉の『ユニバーサルサービス』の達成をめざす。

3. 学校法人クラーク学園は、その使命を達成するために、学生の教育・訓練・養成にとどまらず、現任訓練、市民研修など、すべての人のライフワークの実現に向けて、学園関係者・卒業生・施設関係者などが、教え合い学び合う『開かれた教育共同体』の形成をめざす。
4. 学校法人クラーク学園の役員・評議員・教職員は、その任務を遂行するために、次の標語を教育実践の心構えとする。

MISSION 各自は、この宣言のめざす使命を確認し、責任を自覚する。
PASSION 各自は、その所管の業務を、熱意と誠実をもってあたる。
ACTION 各自は、更なる進展・向上に向けて、行動する。

聖句

「あなたがたの光を

人々の前に輝かしなさい。」

マタイによる福音書 5章16節

和泉短期大学

なぜ『心』が大切なのか

学長 伊藤 忠彦



「目があつても見えない。耳があつても聞こえない」(聖書詩編一一五・五)

このことばは、詩編の詩人が人間の手で作った像について語ったことばです。しかし、私たち生きた人間にもこのことばは言えます。私たちもまた、目に入るもの、耳で聞こえているものを、全て見、聞いているのではありません。私たちの目も耳も見たいもの、聞きたいことを自分の都合よく選んで、見たり聞いたりしているに過ぎないのです。

私は、この傾向がおとなになればなるほど強くなると感じています。

私たちがしばしば、気持ち悪いと感じる昆虫や小動物も、幼児はそれらを、少しの偏見もなく受け入れ手にし、喜ぶ姿に驚きます。幼児の目には蝶も蛾も同じに見えるのです。幼児には、蝶はまだしも蛾は気持ち悪いという偏見に汚染されていない無垢なところがあるのです。

無垢なところだけが良いわけではありません。成長と共に、良いことを快く思い、悪いことを

不快に思う心が私たちのうちに養われなければならぬからです。

「ものを見るのは魂(こころ)である。目そのものが見ているのではない。耳そのものが聞いているのではない」

このことばは、今日の日本サッカー発展への多大な貢献によって、日本サッカーの父とも呼ばれている、デッドマール・クラマーの座右の銘(常に身近において戒めとしていたことば)です。一九六〇年、四年後に迎える東京オリンピックに備え、日本サッカーの強化を目指しドイツに渡った、日本サッカー協会会長野津謙が、クラマーの部屋に掲げられたこのことばを見て、日本のサッカーの将来をクラマーにゆだねる決意をしたというのです。

「ものを見るのは魂である」

学ぶことの多くは見ることに聞くことに負っています。だとすれば、物事を見、聞くことにおいて、また学ぶことにおいて、ところがどんなに大切な位置にあるか知る必要があります。

車椅子の詩人星野富弘さんが、道端に咲く茨(いはら)に目をとめて、

「この道は 茨の道 しかし 茨にもほのかにかおる花が咲く

あの花が好きだから この道をゆこう」とうたっています。

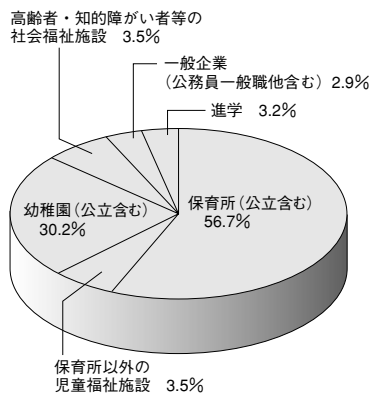
自然を愛しむこころと、自分の定めを受け入れる強い意志(こころ)とがこの詩に結実しているのです。

短期大学の進路状況報告

一人の女性が生涯に産む子どもの平均数の推計値である合計特殊出生率が6年ぶりに上昇し、平成18年は1.32となったことが、厚生労働省の人口動態統計で分かりました。またこの数値は過去最低だった平成17年の1.26を0.06上回る大幅増で、1.3台回復は4年ぶりになり、昨年1年間に生まれた子どもの数は約109万人で前年より約3万人増えたとのことです。この「少子化」傾向はまだまだ続くと見られています。保育所の待機児等の諸問題や採用に関する雇用形態の変化、既卒者の転職数の増加なども含め、今後の就職指導に影響を与えるのは必至の状況となっています。本学においては本年3月の卒業生348名のうち、就職・進学希望者は保育・福祉職として295名が就職しました。各分野でのこれからの活動が期待されています。

2006年度就職・進学決定者状況 (就職・進学希望者)

2007年3月16日現在



教職員永年勤続者表彰

2007年度の永年勤続者の表彰が去る5月14日、創立記念礼拝の際に行われ、武石宣子教授と渡辺角男広報渉外・庶務ユニットサブリーダーの二名が永年勤続三十年により表彰されました。

もつれた糸を一本本ほどく歩み



教授

武石 宣子 (勤続30年)

1977年4月に26歳で着任し学園創立51年目に30年勤続表彰を頂戴いたしました。弱く小さな者が学園の働きの一端を担わせていただいていることに心より感謝をいたします。

勤め始めた頃、「大変なのよ」「思うようにいかなくて辛いよ」とよく愚痴をこぼしていた私に、恩師副島ハマ先生は「人のうしろから歩むのよ」「何事も感謝」と、笑顔で支えて下さいました。そしていつも最後に「心の弱さ、心の醜さをお見通しであられるのです」と。背筋が伸びる思いでした。キリスト教主義の教育を行う和泉短期大学に働きの場を持つことの喜びと、畏れを感じる時でもありました。

また将来福祉援助者になるであろう学生の指導にも、多くの悩みはありました。そんな折ドイツ語のエントヴィクルング(Entwicklung)の語源と保育を関連付け、保育とは子ども自身がつれた糸をほどこいていくことを援助することでもあると気づかされ、私の学生への与える指導が、引き出す指導へと変わる大きな契機となりました。

私自身も学園でこれからは、もつれた糸を一本一本ほどきながら歩みたいと思います。

二〇〇六年度 短期大学教員研究業績

武石宣子教授

- ・単独 「ラウンドテーブルⅢ―一般教育学の歴史的総括を試みる(その2)―乳幼児教育に関する立場から」 大学教育学会第28回大会(東海大学) 2006年6月
- ・単独 シンポジウム「保育者養成大学で教える音楽教育―広範な音楽活動をめざして―」 平成18年度全日本音楽教育研究会大学部会全国大会(千葉大会) 2006年10月

中島弘光教授

- ・共同 「芸術活動」 ハンドベル関東大会(リッピンリンガース) 日本ハンドベル連盟 2006年4月29日
- ・共同 塚田佳男 公開講座(日本歌曲演奏会) 南足柄市クラシック連盟 2006年9月16日
- ・共同 南足柄市文化祭(クラシック部門出演) 南足柄市文化会館大ホール 2006年10月29日
- ・共同 日本ハンドベル連盟アジア大会(リッピンリンガース) 日本ハンドベル連盟 福岡 2006年11月19日
- ・共同 市民クリスマスコンサート(学生聖歌隊) クラーク学園クラークホール 2006年12月16日
- ・共同 南足柄市クラシック連盟ニューイヤースァート(日本歌曲) 悲しくなつたときは、アベリア湯山 南足柄市文化会館大ホール 2007年1月28日

井狩芳子助教

- ・著書 「辞典 大月書店 編集…穴戸健夫・金子利子」
- ・共同 「論文等」 幼児期の生活と遊びに関する研究―幼稚園児の降園後の遊びから「二間がない現象」について― 実践女子大学人間社会学部紀要第3集 2007年3月
- ・共同 「学会発表等」 子育てサロン「はっぴい」の開設にあたって 和泉短期大学研究紀要第27号 2007年3月
- ・共同 「学会発表等」 幼児の心身の健康に関する研究(第4報) 日本保育学会 第59回日本保育学会北海道/浅井学園大学 2006年4月

桜井奈津子助教

- ・著書 「児童福祉論(新)社会福祉士養成テキストブック8) 担当」第5 5児童養護サービス」 ミネルヴァ書房 2007年2月
- ・共同 「論文等」 和泉短期大学における子育てサロン「はっぴい」の現状と課題に関する一考察 和泉短期大学 2007年3月

佐藤守男助教

- ・著書 「人―アーティストが表現する人物―」 株式会社TBSエンターテインメント 2006年5月11日
- ・共同 「芸術活動」 彫刻10人展VOLⅨ(ギヤラリーアイ・いわき市) 2006年5月27日-6月4日

佐藤守男個展(いのは画廊・神保町)

- ・彫刻13点レリーフ8点 2006年6月2日-6月10日
- ・第30回キリスト教美術展(銀座教会)
- ・「風と共に」 2006年6月28日-7月9日
- ・「佐藤守男個展(晩翠画廊・仙台市)」 彫刻12点レリーフ8点 2006年9月26日-10月1日
- ・「あるクリエイターのコレクション 後藤光弥のINPUT OUTPUT」(東京・純心大学・純心ギヤラリー)
- ・「風を追うもの」 2006年11月4日-12月3日
- ・作品:降誕(ステンドグラス) 和泉短期大学クラークホール設置 2006年11月18日
- ・作品:羊の門(乾漆) 日本赤十字看護大学設置 2006年11月27日
- ・「第30回国画彫刻部秋季展(洋協アートホール)」 [2006エスキース] 2006年9月25日-9月30日
- ・「YEAS-END EXHIBITION OF MINI-SCULPTURES」(ギヤラリーセトこう・銀座) 2006年12月11日-12月22日

鈴木敏彦助教

- ・著書 「世界の社会福祉年鑑2006」イギリス 社会福祉の現状Ⅰ(高齢者福祉)
- ・単著 「社会福祉政策と居住環境政策の連携・協働に関する研究報告書」※平成17・18年度文部科学省科学研究費(若手研究B) 助成による研究 和泉短期大学 2007年3月
- ・共同 「久富陽子助教」
- ・共同 「論文等」 「和泉短期大学における子育てサロン「はっぴい」の現状と課題に関する一考察」 和泉短期大学研究紀要第27号 2007年3月
- ・共同 「学会発表等」 「元中国籍の母親の位置取りと子どもの中国語への思いの関係」 日本保育学会第59回大会 2006年5月
- ・単著 「藤川いつみ助教」
- ・共同 「論文等」 「幼児教育の原理」 みらい 2006年5月
- ・共同 「論文等」 「全米幼児教育協会の倫理規定に関する研究(2)」 保育者養成教員の倫理― 和泉短期大学研究紀要第27号 2007年3月

藤川いつみ助教

- ・著書 「幼児教育の原理」 みらい 2006年5月
- ・共同 「論文等」 「保育者養成教員の倫理―」 和泉短期大学研究紀要第27号 2007年3月
- ・共同 「学会発表等」 「全米幼児教育協会の倫理規定に関する研究(2)」 保育者養成教員の倫理― 和泉短期大学研究紀要第27号 2007年3月

伊藤美佳専任講師

- ・著書 「幼児教育の原理」 みらい 2006年5月
- ・共同 「論文等」 「子育て支援者のためのカウンセリングガイド読本 福祉と教育の絆をこえて(独立行政法人福祉医療機構(子育て支援基金) 助成)」 財団法人家庭保健生活指導センター 2007年2月
- ・共同 「論文等」 「子育て支援者のためのカウンセリングガイド 普及と事業報告書(平成18年度 独立行政法人福祉医療機構(子育て支援基金) 助成事業)」 財団法人家庭保健生活指導センター 2007年3月
- ・共同 「学会発表等」 「月刊絵本「こどものとも」にみる性別役割分業観―父親像・母親像に注目して―」

平田美智子専任講師

- ・著書 「アタッチメントに配慮した里親支援」 和泉短期大学研究紀要第27号 2007年3月
- ・共同 「学会発表等」 「要保護児童の養子縁組後継事業の調査研究」 日本子ども家庭福祉学会(天正大学) 2006年6月
- ・単著 「韓国の養子縁組機関―日本との比較」 日本社会福祉学会(立教大学) 2006年10月

日本保育学会第59回大会(浅井学園大学)

- ・月刊絵本「こどものとも」にみる性別役割分業観 「でておひさま」初版本(1958)と再版本(1984)の比較から」 絵本学会第9回大会(文教大学越谷キャンパス) 2006年6月
- ・単独 「月刊絵本「こどものとも」にみる性別役割分業観―男性を中心に描かれた作品に注目して―」 日本乳幼児教育学会第16回大会(大阪総合保育大学) 2006年11月

矢野由佳子専任講師

- ・共同 「論文等」 「教師をめざす人のための青年心理学」 学陽書房 2006年4月
- ・共同 「学会発表等」 「保育における心理臨床研修の実践(5)」 日本心理学会第70回大会(九州大学) 2006年11月
- ・共同 「保育における心理臨床研修の実践(6)」 日本心理学会第70回大会(九州大学)
- ・著書 「いちばんはじめの社会福祉 第二版」 樹村房 2006年4月
- ・共同 「光とともに」研究(1)」 和泉短期大学研究紀要第27号 2007年3月
- ・共同 「和泉短期大学における子育てサロン「はっぴい」の現状と課題に関する一考察」 和泉短期大学研究紀要第27号 2007年3月

横川剛毅専任講師

- ・著書 「子育て支援の現状と課題」 和泉短期大学研究紀要第27号 2007年3月
- ・単著 「幼児教育の原理」 みらい 2006年5月
- ・共同 「論文等」 「子育て支援の現状と課題」 和泉短期大学研究紀要第27号 2007年3月
- ・共同 「学会発表等」 「低年齢児の長時間保育を考える」 保育学会第59回大会(浅井学園大学) 2006年5月

塩谷香専任講師

- ・著書 「子育て支援の現状と課題」 和泉短期大学研究紀要第27号 2007年3月
- ・単著 「幼児教育の原理」 みらい 2006年5月
- ・共同 「論文等」 「子育て支援の現状と課題」 和泉短期大学研究紀要第27号 2007年3月
- ・共同 「学会発表等」 「低年齢児の長時間保育を考える」 保育学会第59回大会(浅井学園大学) 2006年5月

30年の思い出



渡辺角男 (勤続30年)

永年勤続30年の表彰が去る5月14日チャペルアワー礼拝終了後行われ、記念品をいただきました。私がクラーク学園に勤めたのは1976年(昭和51年)10月世田谷区中町より相模原市に移転してきた後期からでした。その時の相模原市の人口は390908名でした。2007年5月1日現在、津久井・相模湖・城山・藤野との合併で人口は703178名となりました。

30年間の思い出として私は色々な経験をさせて頂きました。定員50名のスクールバスに120名の学生を乗せ信号待ちし発進する時ハンドルが重く回らなくなり学生数名降りていただいたこと、又移転した翌年の学園祭で相模原駅前より西門商店街經由相模原市民会館までの間、相模原警察署の誘導によりスクールバスに飾り付けしパレードしたこと。このパレードで和泉短期大学の名前が相模原市に知られるようになったと思います。

又クラーク学園が相模原市に移転したときは財政も厳しく、週1回はクラーク学園と教職員組合との団体交渉を夜11時頃まで行ったことが昨日のように浮かんでまいります。これからもクラーク学園の発展のために努力してまいります。

どうぞよろしくお願ひします



専任講師

山本美貴子

私が初めて和泉短大に伺った三年前の春の日。入学式を終え帰途に着く一年生の緊張と希望に満ちた表情と、彼らの前途を神様が祝福する様に降り注ぐ満開の桜の美しい光景を今でも鮮明に覚えています。私は学生に新しく出逢う度に、私自身が新任保育者として参加した初めての保育者研修会で渡辺和子先生から頂いた言葉の思い出します。

『小さき小さく咲かん小さくも
小さき限り神を讀えて』

愛をもつて交わり、世界に一つ掛けがえのないその子らしい花を咲かせる保育の営み、小さき自分にこそ出来る何かを探求することの大切さを心に刻みました。そして今春和泉の一員に加えて頂きました。学生と共に、その子らしさを育み人と繋がる音楽を学んでゆきたい、小さき私なりに丁寧を務めてゆきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

〈略歴〉

1985年 国立音楽大学教育音楽学科幼児教育専攻卒業後、13年間都内保育現場にて教諭として勤務
2001年 国立音楽大学大学院音楽研究科修士課程修了
2002年 大学、短大に於いて講師として保育者養成に関わる

よし、がんばるぞー!



専任職員

山中 仁

今年度4月より、広報渉外・庶務ユニットで事務を担当させていただきまます山中仁です。主に、学生募集にかかわる業務や総務・庶務としての仕事を任せております。

2007年度からは、18歳人口129万9千人と130万人を割り、大学全入時代を迎えました。今、各大学・短期大学・専門学校では、学生確保の壮絶な争い、奪い合いが展開されておりまます。

半世紀にわたり、先輩職員の方々が築き上げてきた和泉の歴史。それは、キリスト教主義に基づいた「愛と奉仕」の心、そして「確かな知識と技能」を持つ質の高い保育者、介護者の養成であります。

私は、和泉の歴史と伝統を守り、多くの高校生や教員、また地域の人々のパイプ役となり、そして和泉の更なる発展を目指して尽力していきたくと思ひます。

どうぞ皆様、よろしくお願ひいたします。

〈略歴〉

日本体育大学卒業後、都立南野高等学校にて保健体育非常勤勤務
町田福祉専門学校 広報課にて、14年7ヶ月間学生募集(広報)として勤務。

どうぞよろしくお願ひします



専任職員

穴井康夫

本年4月より、和泉短期大学事務局に着任させていただきました。穴井康夫と申します。この3月まで在学生として学ばせていただいた和泉の地で、新たなスタートを切れたことはとても嬉しく、また誇りに思ひます。

2年間過ごした校内は見慣れていますが、どこか新鮮さと懐かしさを感じます。新一年生、そしてこの4月に入学された新一年生の学生さんを見ると、自分の過ごしてきた学生生活が一つ一つ思い起こされ、二年間という時の流れの早さ、そして身をもって体験してきた事柄の数々が今の自分につながっているのだと強く感じます。学校生活の初めは緊張し、実習はその何倍も緊張し、子どもの前に立つ時には責任を感じ、たった二年間の中でも本当に沢山の体験をしてきたと思ひます。その様な体験ができたのは、いつも親身になって接して下さった教職員の方々、そして本当に素晴らしい仲間を支えられてきたからこそだと思ひます。

まだまだ若輩者で、及ばぬところばかりですが、今度は教職員という視点から学生の皆さんを精一杯支えていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

実習・ボランティアセンターから



助教 実習・ボランティアセンター

名雪 充美

4月から実習・ボランティアセンターの教員になりました名雪充美です。3月までは、和泉短大の非常勤講師でしたので、専任になり嬉しく思ひます。子どもや子どもの生活する場に興味を持ち、保育所、乳児院、母子生活支援施設等で働く機会がありました。これらの経験がセンターの仕事にどのように生かされるのか、今のところは想像はつきませんが、振り返りや新たな気づきに出逢うのではないかと楽しみにしています。

実習・ボランティアセンターにいますと、これまでにお世話になった施設の先生方との再会を懐かしく思ったり、卒業生や在校生の成長をみる事ができます。今後は、実習・ボランティアセンターから、学生の实習とボランティアの支援を致します。どうぞよろしくお願ひ致します。

〈略歴〉

大学卒業後、中学校で家庭科教諭として勤務。その後、神奈川県認可外保育所(大船第一共同保育所)で働きながら、大学院で児童学を専攻。1998年より、非常勤講師として専門学校、短大で保育士養成に携わる。2004年より、和泉短期大学非常勤講師として3年間勤務。

再び和泉へ



助教 実習・ボランティアセンター

齋藤 純

4月より、実習・ボランティアセンターにて勤務させて頂いております。私が和泉生だった頃、実習・ボランティアセンターはありませんでした。そのため役割を思い返すことは叶わず、一から教えて頂いております。学生時代にお世話になった先生も多くおられる中、今度は以前と異なる立場で再びお世話になっております。

現場での実習は、多くの学びを得る貴重な機会です。私自身も2005年に、小学校で4週間実習の機会を得ました。和泉生の頃とは、また違った幸せを感じる日々でした。社会人を経て大学に入ったことで、学べる環境の有難さや、現場実習での経験の大きさを改めて実感しました。これらの体験や保育士として勤務した経験を生かし、保育者を志す学生のお役に立てるよう努力したいと思います。

〈略歴〉

和泉短期大学卒業後、川崎市立・白鳥保育園勤務。
病後児保育デイサービスでの勤務を経て池田小児科附属保育園(グミナーサリ)主任保育士として開園準備から携わる。
2002年4月 大東文化大学文学部教育学科入学、2006年3月卒業。
2006年4月 千葉大学大学院教育学研究科カリキュラム開発専攻入学、在学中。

和泉福祉専門学校

新たな出発



校長 豊福 義彦

この四月、クラーク学園和泉福祉専門学校に戻ってきました。三月に茨城キリスト教大学を定年で退職して残された余生を静かに過ごす積りでいましたが、前任の宮本和武校長から強い要請があり、私はかつてこの専門学校を創設したときに関わった一人として、また少子高齢社会のなかで介護福祉の需要と専門性確立の必要が強調されている折、意を決して教育の責の一端を担うことにしました。

聖書ルカによる福音書15章にイエスが放蕩息子の喩えを語られているように、息子が放蕩の限りを尽して我が家に帰ったとき、走り寄って迎え入れ抱擁した父親の姿を私はこのクラーク学園にみました。それは私が十一年前に和泉短期大学を去って二つの四年制大学の人間福祉学部で教育してきた経験を通して、介護福祉に

携わる学生たちにヒューマンサービスの基本の考え方を学生たちと共に学び教えていくことができる機会を与えて下さったということです。ここに改めてクラーク学園の理事長平良先生をはじめ理事・評議員の先生方並びに教職員の皆様にご心から感謝の意を表したい気持ちで一杯です。

和泉短期大学カレッジソングの作詞・作曲者である卒業生の東啓子(旧姓角田)さんから「お帰りなさい、先生、これでクラーク学園は乳幼児から高齢者に至るまですべて人間福祉の教育の実践が実現出来るのですね。私も今高齢者のための福祉施設で働いています。」という励ましの便りを頂きました。私はここに心を新たにまた思いをあらたにして、与えられた責任の重さを自覚しその責を果たすために励んでいきたいと強く願っています。

私たちの社会は今世紀間もなく超高齢社会を迎えようとしています。いや地方の多くの市町村ではもうとくに人口の二十パーセント以上が65歳以上の高齢者で占められていると報告されています。このようなニュースに接すると、愈々私

たちの和泉福祉専門学校の出番であると、私たち教職員一同は建学の精神である「愛と奉仕」をモットーに、資質の高い専門職としての学生たちの教育に熱い力を注いでいくことが急務になって来ています。最後に聖書の言葉から学びます。

「愛には偽りがあつてはなりません。兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもつて互いに相手を優れた者と思いなさい。希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。」

ローマの信徒への手紙12章9節～12節

これからも皆様の力強いご支援とご指導を賜りたく宜しく願います。

二〇〇六年度 専門学校教員研究業績

- 宮本和武校長
- 〔著書〕
- ・編著 「学校法人クラーク学園50年誌」 三五堂 2006年5月
- ・編著 「児童福祉施設における処遇技術に関する研究(Ⅱ)―実習生は施設職員をどのように見たのか―」 日本社会事業大学社会福祉学会 2007年1月
- ・共著 「児童福祉施設における処遇技術に関する研究(Ⅰ)―実習生は施設職員をどのように見たのか―」 日本社会事業大学社会福祉学会 2006年6月
- 〔学会発表等〕
- ・共同 「児童福祉施設における処遇技術に関する研究(Ⅱ)―実習生は施設職員をどのように見たのか―」 日本社会事業大学社会福祉学会 2006年6月
- 佐久間志保子専任教員
- 〔著書〕
- ・共著 「改訂版わかりやすく役に立つ介護専門用語集」 財団法人介護労働安定センター 2007年3月
- ・共同 「在宅医療廃棄物適正処理のための訪問看護ステーションにおける教育的課題」 日本在宅医学会大会(札幌) 2007年3月

専門学校進路状況報告

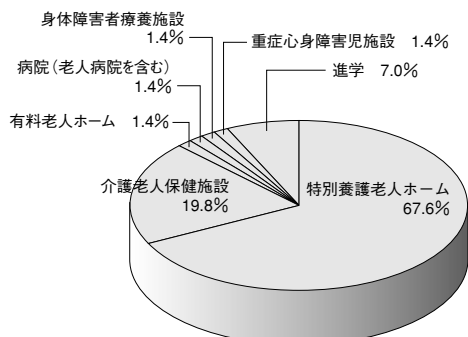
就職活動は、昨年と同様に秋頃から本格的になりました。昨年よりも求人票が多く、学生にとっては恵まれた環境になっています。

今年度は介護保険改正に伴い、少人数の単位の集団に分けて介護するユニットケアを取り入れる施設が多くみられます。施設は利用者一人一人に対する個別ケアを重視する質の高い介護を要求しています。学生もユニットケアで介護したいと希望する者が増えています。

2006年度の卒業生は79名でした。内訳は67名が就職、5名が福祉系大学等に進学しました。就職先の割合は特別養護老人ホーム68%、介護老人保健施設20%、有料老人ホーム・病院・各障害施設に1%ずつになっています。ほぼ全員が介護福祉士の資格を活かした就職先を決定しています。

2006年度進路決定先

2007年3月14日現在



2007年度予算書の概要

学校法人会計基準に基づく予算には、資金収支予算書と消費収支予算書とがあります。

資金収支予算書の資金収入の部合計は、2,802,533千円で、資金支出合計1,057,289千円との差額である1,745,244千円が次年度への繰越支払資金(現金預金)になります。前年度繰越支払資金より19,950千円の減少の見込みです。

消費収支計算書の帰属収入合計は994,031千円です。基本金組入額は、山荘建物の取り壊しによる基本金の取り崩し効果により8千円となり、消費収入合計は、帰属収入とほぼ同額の994,023千円です。これに対して消費支出は、931,305千円で、62,718千円の消費収入超過となります。

2006年度決算の概要

2006年度決算が5月26日(土)開催の評議員会ならびに理事会で承認されました。

その概要を説明いたします。学校法人会計の計算書類は、資金繰りの状態を表す「資金収支計算書」、経営状態を表す「消費収支計算書」、財政状態を表す「貸借対照表」により表示し、私立学校法第47条及び学校法人会計基準第4条に定められた規則に基づき作成しています。

資金収支計算書は、2006年度中の全ての資金の流れを表示した計算書です。資金収入の総額は2,785,327千円となりました。これに対し、支出した資金の総額は、1,020,133千円となり、2007年度に繰り越される支払資金(現金預金)は、2005年度に比べて61,509千円増加して、1,765,194千円となりました。

消費収支計算書は、当該年度の収入及び支出の経費の均

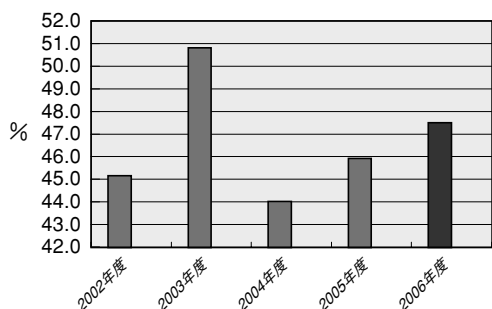
衡状態を表すことを目的にしています。収入の部においては、2006年度は学園創立50周年を迎えたため、記念事業募金を募集した結果、同窓会、父母会、協力会社等から18,744千円の特別寄付金を得ることができました。これにより収入合計は、1,105,134千円となりました。帰属収入の約88%を学納金に依存しているため、学生数の減少は、本学園の運営に甚大な影響を及ぼすこととなります。帰属収入は、学校法人の純資産を増加させる収入です。この帰属収入から第1号基本金である学校法人を継続的に保持していくための2006年度取得の固定資産(土地、建物、備品等)、第3号基本金である奨学基金の果実との合計15,331千円を控除した消費収入の部合計は、1,089,803千円です。

一方、支出面は支出の大半を占める人件費は、524,895千円で帰属収入に対する人件費比率は47.4%です。教育研究経費は、271,971千円です。教育研究活動に要する経費全般について効率的な支出に努めました。管理経費は、総額で98,247千円です。法人業務及び管理部門の維持管理運営費の効率的、効果的支出を図り、経費削減に努めた結果です。消費収入の部合計1,089,803千円から消費支出の部合計896,090千円を控除した収支差額は、193,713千円の消費収入超過となりました。

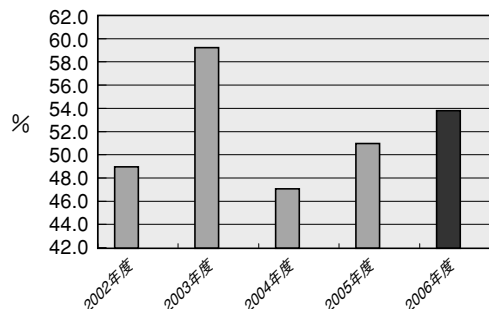
貸借対照表は、2006年度末における当法人の資産、負債、基本金等の状態を示すものです。なお減価償却の対象資産(建物、構築物、機器備品等)については取得価額から減価償却累計額等を控除した金額で表しています。資産の総額は7,997,041千円です。今年度は研究棟敷地682㎡を25,205千円で取得しました。前年度に比べ196,625千円増加しました。負債の総額547,536千円を控除した純資産は7,449,505千円で2005年度より209,044千円増加しました。

消費収支計算書の財務比率の推移 (2002年度～2006年度)

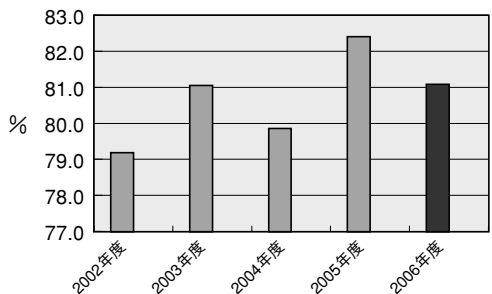
■人件費比率



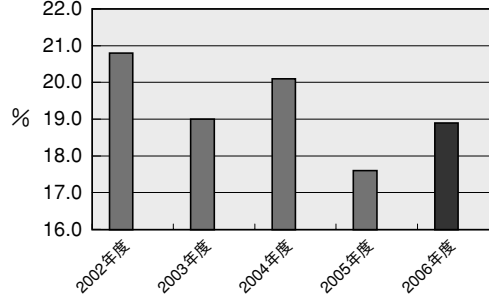
■人件費依存率



■消費支出比率



■帰属収支差額比率



資金収支計算書(概要)

収入の部

(単位:千円)

科目	2006年度 決算額	2007年度 予算額
学生生徒等納付金収入	975,920	894,310
手数料収入	16,282	14,850
寄付金収入	18,744	1,100
補助金収入	47,398	48,100
資産運用収入	8,284	15,000
事業収入	3,672	3,240
雑収入	34,534	17,431
前受金収入	279,735	279,500
その他の収入	42,625	60,874
資金収入調整勘定	△ 345,552	△ 297,066
前年度繰越支払資金	1,703,685	1,765,194
資金収入合計	2,785,327	2,802,533

支出の部

(単位:千円)

科目	2006年度 決算額	2007年度 予算額
人件費支出	530,803	511,433
教育研究経費支出	168,072	212,400
管理経費支出	88,057	83,515
施設関係支出	40,006	5,326
設備関係支出	8,535	3,855
資産運用支出	202,003	165,515
その他の支出	17,522	49,422
[予備費]		30,000
資金支出調整勘定	△ 34,865	△ 4,177
次年度繰越支払資金	1,765,194	1,745,244
資金支出合計	2,785,327	2,802,533

消費収支計算書(概要)

消費収入の部

(単位:千円)

科目	2006年度 決算額	2007年度 予算額
学生生徒等納付金	975,920	894,310
手数料	16,282	14,850
寄付金	19,044	1,100
補助金	47,398	48,100
資産運用収入	8,284	15,000
事業収入	3,672	3,240
雑収入	34,534	17,431
帰属収入合計	1,105,134	994,031
基本金組入額合計	△ 15,331	△ 8
消費収入の部合計	1,089,803	994,023

消費支出の部

(単位:千円)

科目	2006年度 決算額	2007年度 予算額
人件費	524,895	508,886
教育研究経費	271,971	299,688
(減価償却額)	(103,807)	(87,288)
管理経費	98,247	91,379
(減価償却額)	(13,909)	(7,864)
資産処分差額	977	1,352
[予備費]		30,000
消費支出の部合計	896,090	931,305
当年度消費収入超過額	193,713	62,718
基本金取崩額	0	62,183
前年度消費収入超過額	1,454,303	1,648,016
翌年度消費収入超過額	1,648,016	1,772,917

2006年度貸借対照表(概要) 2007年3月31日

資産の部

(単位:千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	6,197,271	6,065,811	131,460
有形固定資産	3,685,922	3,753,925	△ 68,003
土地	2,018,901	1,993,696	25,205
建物	1,436,813	1,508,306	△ 71,493
構築物	66,228	77,517	△ 11,289
教育研究用機器備品	70,649	87,050	△ 16,401
その他の機器備品	6,996	7,140	△ 144
図書	80,755	80,216	539
車両	0	0	0
建設仮勘定	5,580	0	5,580
その他の固定資産	2,511,349	2,311,886	199,463
借地権	0	1,850	△ 1,850
電話加入権	690	690	0
施設利用権	1,171	1,261	△ 90
有価証券	20,000	20,000	0
奨学貸付金	1,405	2,005	△ 600
出資	2,809	2,808	1
定期預金	1,000	1,000	0
減価償却引当特定資産	1,951,138	1,849,138	102,000
退職給与引当特定資産	229,112	229,112	0
施設拡充引当特定資産	300,000	200,000	100,000
第3号基本金引当資産	4,024	4,022	2
流動資産	1,799,770	1,734,575	65,195
現金預金	1,765,194	1,703,685	61,509
未収入金	30,322	30,253	69
前払金	3,718	0	3,718
立替金	536	667	△ 131
資産の部合計	7,997,041	7,800,416	196,625

負債の部

(単位:千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	222,221	228,129	△ 5,908
退職給与引当金	222,221	228,129	△ 5,908
流動負債	325,315	331,826	△ 6,511
未払金	34,198	4,170	30,028
前受金	279,735	315,230	△ 35,495
預り金	11,382	12,426	△ 1,044
負債の部合計	547,536	559,955	△ 12,419

基本金の部

第1号基本金	5,724,464	5,709,135	15,329
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	4,025	4,023	2
第4号基本金	73,000	73,000	0
基本金の部合計	5,801,489	5,786,158	15,331

消費収支差額の部

翌年度繰越消費収入超過額	1,648,016	1,454,303	193,713
消費収支差額の部合計	1,648,016	1,454,303	193,713
負債の部、基本金の部	7,997,041	7,800,416	196,625
消費収支差額の部合計			

今後の財政の見通しについて

少子化による18歳人口の減少、4年制大学等の保育士養成校の増加、主務官庁による入学定員遵守の指導等、短期大学を取り巻く経営環境は年々厳しさを増して、私立大学の4割、短期大学の約5割が定員未充足の状況です。帰属収入の約88%を学納金に依存している現状において、短期大学は入学者の定員遵守をしていかなければならないため、また、専門学校は学生数の減少により、収益事業等による外部資金の導入等の経営戦略を検討していかなければなりません。

一方、教育研究活動の維持向上と全般的な支出の削減とのバランスを保ちながら、一層の財政基盤の強化を図っていかなくてはなりません。

2007年度は、施設設備の整備として学園創立50周年記念事業として和泉クラーク・ホールにステンドグラスの設置を行い、次年度以降(2008年度から2010年度まで)も1年に2枚ずつステンドグラスを設置していくことになっています。スクールバスは、排ガス規制により使用することが出来なくなるため、新たにスクールバス4台の運行を全面委託することになります。

いずみ山荘については、2000年度より長野県湯の丸高原において山荘を運営してきましたが、収支状況が悪化しているため山荘を閉荘し、建物を取り壊すことになりました。また、学校教育法による短期大学基準協会の認証評価を受ける年度であり、さらに学校法人の格付けとして外部機関による第三者評価を受けることとなります。

入学定員遵守という厳しい規制の中で、学園の環境整備充実のために将来にわたり支出要因は多く、さらなる飛躍を目指して、今後は業務改善し、教職員一人ひとりがコスト意識を持ち、一層の合理的・効率的な支出に努め資金の有効活用をしていきます。

クラーク学園は、USR(大学の社会的責任)を果たしつつ、本学園に求められている社会的な要請に応じ、社会からの信頼を得るために、積極的に情報を公開し、説明責任を果たし、高等教育機関の理念である教育・研究・社会貢献を行い、キリスト教の精神に立った、充実した教育と健全な運営に取り組み、学園のミッションを果たして参ります。

学校法人クラーク学園 創立50周年記念事業募金報告

●寄付者ご芳名 (順不同・敬称省略)

専任教員

伊藤 忠彦
宮本 和武
栗林 直樹
渡辺 角男

元職員

岡田 澄子
島崎 千春

クラーク学園評議員・

短期大学非常勤講師

短期大学父母会

和泉短期大学父母会

短期大学在学生父母

秋山 勤

阿久津 宏

石井 重光

石井 規文

石川 剛

石野 妙子

井上 高志

白井 晶子

内山 清一

大瀬良 信雄

大橋 幸弘

岡本 俊二

萩野 徹

織田 茂

笠尾 弘保

柏木 高史

加藤 丈晴

木村 治男

草野 夏美

國原 伸郎
国広 順子
小島 一浩
小玉 紀幸
小林 敦
小森 義幸
坂本 正明
佐久間 泰宏
佐藤 聖隆
佐藤 伸一郎
佐藤 秀徳
佐野 三男
白川 勇
鈴木 栄
多田 伸治
種岡 春雄
玉井 統
中島 勉
西澤 美仁
萩原 元治
長谷川 公一
樋口 てるみ
伏木 郁子
藤木 敏夫
藤原 泉
堀添 浩美
本田 隆夫
丸山 博
三石 恭子
箕輪 憲昭
宮城 晃
村岡 正次
八卷 敏
山崎 喜久男

山田 隆
横山 保夫
和田 順行
渡邊 良次
短期大学在学生
高田 瑛子
友岡 紗弥加
渡部 美香
短期大学卒業生父母
名木 幸男
短期大学卒業生
相沢 美津子
会田 範子
秋山 芳子
荒井 京子
新井 津多恵
池田 聖子
石川 順子
岩根 弘恵
内田 和子
大木 千鶴子
大村 直美
岡田 聡子
小沢 知子
小原 律子
香川 敏明
加瀬 加奈絵
片山 和子
金山 マサ子
上遠野 真理子
亀沢 貴子
菅野 節子
菊地 美喜子

木村 恭子
倉持 弘子
笹野 和子
塩見 宏美
恵子
州之内 順子
関野 美鈴
相馬 英子
高橋 浩子
津川 めぐみ
永井 壽美子
浪岡 優子
野池 道子
羽柴 明美
松本 啓子
宮尾 友子
宮崎 早苗
武藤 智加子
森 眞奈美
柳井 美帆
柳田 真知子
山岡 恵里香
山田 智子
山田 まち子
専門学校在学生父母
江成 芳幸
高野 富男
早川 壯一
専門学校卒業生
榎本 京子
小林 さえ子
玉木 光一
戸田 ちゑ子
真壁 秀明

企業

河合楽器株式会社
木村オルガン工房
有限会社サイン開発
有限会社ジオフロード
シダックスフードサービス株式会社
株式会社進学教育研究社
有限会社相武ガーデン
株式会社ハウスネット
株式会社日立オートサービス
丸善株式会社
有限会社八木園芸

2006年6月25日～2007年5月31日
合計件数:136件
合計金額:4,603,800円

(2007年5月31日までの総累計
累計件数:567件
累計金額:29,909,111円)

この度は、クラーク学園創立50周年記念事業募金の趣旨にご賛同賜り、多大のご寄付をいただきまして誠にありがとうございました。
2006年6月25日から、2007年5月31日までににご寄付いただきました方につきまして、感謝をもってご報告いたします。
なお、当局が受理しました日付で処理いたしておりますので、多少のずれが生じている方もありますが、何卒ご了承をお願いいたします。
理事長 平 良

人事

法人

理事(任期:07・4・1～08・6・14)
宮本 和武

評議員(任期:07・4・1～08・5・31)
宮本 和武

△退任理事・評議員(07・3・31)
石田 周介

△短期大学
△採 用(07・4・1)
山本美貴子 専任講師
名雪 充美 実習ボランティアセンター(助教)

齋藤 純 実習ボランティアセンター(助教)

山中 仁 広報渉外・庶務ユニット

穴井 康夫 教育・学習支援ユニット

△退 任(任期満了)07・3・31
原田 康子 教務部長

中村美津子 図書館長

△就 任(07・4・1)
武石 宣子 教務部長兼第三者評価連絡調整担当者(ALO)

中島 弘光 宗教部長

佐藤 守男 学生部長

櫻井奈津子 図書館長

鈴木 敏彦 入試広報部長

藤川いづみ 実習ボランティアセンター長

△異動及び改称(07・4・1)
土橋 正文 事務局次長(兼 経理 施設ユニットリーダー)

村山 徳淳 学生支援ユニットリーダー

栗林 直樹 教育学習支援ユニットリーダー

吉田 耕也 専門学校ユニット事務長

今野 和隆 学術情報ユニットリーダー

平塚 豊 広報渉外・庶務ユニットリーダー

加藤 正春 経理・施設ユニットサプリーダー

渡辺 角男 広報渉外・庶務ユニットサプリーダー

田中 孝一 教育・学習支援ユニットサプリーダー

今泉 治子 専門学校ユニット主任

曾根真理子 広報渉外庶務ユニット主任法人担当

川上美智留 経理・施設ユニット主任

三好 順平 経理・施設ユニット主任

木村 文紀 学生支援ユニット

△教授職退職(07・3・31)
伊藤 忠彦(学長職は継続)

△退 職
島崎 千春 教務課兼実習ボランティアセンター(06・9・30)

久富 陽子 助教(07・3・31)

鈴木 あや 総務課(07・3・31)

△退 職(07・3・31)
宮本 和武 専任教員

△採 用(06・12・1)
山本 浩子 専任教員

期間:06・12・1～07・11・15

△校長退任(任期満了)07・3・31
宮本 和武

△校長就任(07・4・1)
豊福 義彦

△退 職(07・3・31)
宮本 和武 専任教員

△採 用(06・12・1)
山本 浩子 専任教員

△退 職(07・3・31)
宮本 和武 専任教員

△採 用(06・12・1)
山本 浩子 専任教員

期間:06・12・1～07・11・15

△校長退任(任期満了)07・3・31
宮本 和武

△校長就任(07・4・1)
豊福 義彦

△退 職(07・3・31)
宮本 和武 専任教員

△採 用(06・12・1)
山本 浩子 専任教員

期間:06・12・1～07・11・15

△校長退任(任期満了)07・3・31
宮本 和武

△校長就任(07・4・1)
豊福 義彦

△退 職(07・3・31)
宮本 和武 専任教員

△採 用(06・12・1)
山本 浩子 専任教員

期間:06・12・1～07・11・15

△校長退任(任期満了)07・3・31
宮本 和武

△校長就任(07・4・1)
豊福 義彦

△退 職(07・3・31)
宮本 和武 専任教員

△採 用(06・12・1)
山本 浩子 専任教員

期間:06・12・1～07・11・15

△校長退任(任期満了)07・3・31
宮本 和武

△校長就任(07・4・1)
豊福 義彦

△退 職(07・3・31)
宮本 和武 専任教員

△採 用(06・12・1)
山本 浩子 専任教員

期間:06・12・1～07・11・15

△校長退任(任期満了)07・3・31
宮本 和武

△校長就任(07・4・1)
豊福 義彦

△退 職(07・3・31)
宮本 和武 専任教員

△採 用(06・12・1)
山本 浩子 専任教員

期間:06・12・1～07・11・15

いずみ山荘の閉荘のお知らせ



長野県、湯の丸高原にあった本学園の山荘を、この6月をもって閉荘しました。標高1900mの素晴らしい自然の中にあり、宗教部のサマーキャンプにも毎年使用されてきましたが、古くなったこと、利用者も減ったこと等で、維持が難しくなり、閉荘することになりました。

表彰

全国保育士養成協議会 平成18年度教職員表彰者

中村美津子

新美 君江氏

(本学園創立発起人、元理事、元最

御母堂 07・2・13)

△故 藤林 益三氏

(本学園創立発起人、元理事、元最

高裁判所長官 07・4・24)

△故 John, F. Schultz氏

(Christian Children's Fund前会長

07・4・27)

△故 岩崎 フミ氏

(本学園事務局長 佐藤公啓氏

御岳母 07・6・29)